

中村欣一郎市長の

山椒は小粒でも...



Vol.1

始まりはじまり



皆さんこんにちは、新しく市長に就任させていただいて約ひと月が過ぎました。

4月21日、菓子博の開会式の壇上に副大会長としてするのが最初の公務でした。その後市役所に登庁し、職員への訓示をする、というイレギュラーな、ある意味思い出深いスタートとなりました。

以来、各方面への挨拶や、今月5日から始まる議会の準備に任せてこ舞いの毎日です。

海女さんに例えると、機桶につかまって息を整えている、といったところでしょうか。

波間に漂いながら、時折海をのぞいては、アワビはどこにいるのやらとワクワクドキドキしています。

これから毎月この欄を担当させていただきます。学生のころからエッセイが大好きで、当時は山口瞳さんやら青木雨彦さん、團伊玖磨さんら

のエッセイ集をよく読みましたが、まさかこうして自分も連載することになるうとは夢にも思いませんでした。

さて初回ですのでタイトルに込めた思いから始めたいと思います。タイトルは皆さんご存知の「山椒は小粒でもぴりりと辛い」ということわざから借用させてもらいました。

意味は、山椒の実は小さく見えてもとても辛い。体や規模が小さいような人や組織でも、気性や才能が鋭く優れている、侮れないことのたとえです。

説明するまでもなく、鳥羽は三重県の14ある市の中で3番目に人口が少ない市です。昨年人口が二万人を切ったことはとてもショックなことでした。

今回の選挙を通じて耳に入ってくるのも、「鳥羽市も消滅可能性都市に入れられた」やら、「もうじき夕張市みた

いになるんや」みたいな先行きが暗い話ばかりでした。

一方で県議会にいるときに他の地域の議員さんたちから聞いた話は、多少の社交辞令は差し引いたとしても、全く違ったもので、「鳥羽は先進的な取り組みをしとるんやなあ」とか、「いつつも新聞にデカデカ載つとるねえ」、

「ようけいろんな話題があるやんか」などと、しょっちゅう羨ましがられていました。

また県外に出向いた時でも、「鳥羽」の知名度や話題性は抜群で、文字通り群を抜いていると思います。人口的には小さなまちではありますが、三重県の29市町の中でもとても存在感があるのではないかと思います。

大粒にするには時間を要しますが、まずは辛さを増すことにチャレンジしていきたいと思えますので、皆さんどうぞよろしくお願いいたします。

「ちなみに山椒は小粒でも…」を英語で言うと、「Good things come in small packages.」(よいことは小さな包みで届く。何か良いものであるために必ずしも大きい必要がない)というのだそうです、参考まで。



Vol.159

市民課人権・生活係 ☎ 1126

人権擁護委員を ご存知ですか？

「人権擁護委員」という言葉を聞いて、ピンとくる人はどれくらいいるでしょうか？

人権擁護委員とは、地域住民のみなさんの中から、人権擁護に理解のあるかたを市区町村長が推薦し、法務大臣の委嘱を受けた民間のかたがたです。

無報酬ではありますが、全国で約14,000人が委嘱され、鳥羽市でも、現在7人の委員さんが活動しています。

その活動内容は多岐に渡り、ときには悩んでいるかたの声を耳を傾けたり(人権相談)・ときには保育所幼稚園や小中学校へ出向き人形劇や歌などで子どもたちに語りかけたりします。(人権教室)

イベント時には、着ぐるみを着てあなたに声を掛けたことがあるかもしれません。このように、人権擁護委員にはたくさんの方の活動をしていただいています。その目的は、実はただ一つです。

「みなさんの基本的な人権を擁護すること」

私たちが生まれながらにして当たり前にとっている「生きていく」という権利。これが基本的な人権です。人権擁護委員は、その基本的な人権を守ることを目的に活動しています。ただ、残念ながらニュースや新聞などでは、その権利が簡単に傷つけられたり、脅かされたりする事件が連日報道されています。人権擁護委員は、そのような報道に心を痛めつつ、一人でも悩み、苦しみ、基本的な人権が脅かされているかたがいなくなるように強い信念を持って活動しています。6月1日は「人権擁護委員の日」です。今日もどこかであなたの人権を守るため、人権擁護委員は活動しています。